

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 ひびきの 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

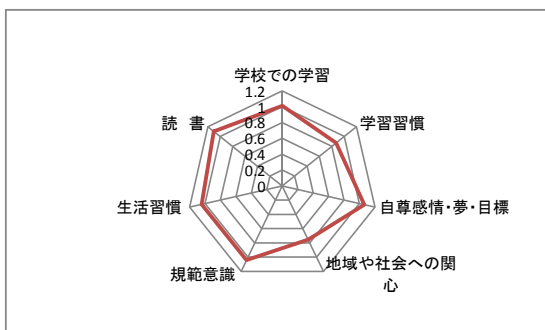
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。問題別に見ても全国を上回っている問題が多かった。 ・「書くこと」「読むこと」の領域の正答率が高く、「話すこと・聞くこと」「言語文化と特質」の領域は全国と同程度であった。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	手紙の構成を理解し後付けを書く問題等、「書くこと」に関する正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	漢字の書き取り(一部)やことわざの使い方など、「伝統的な言語文化と国語の特質」に関する問題に若干の課題が見られた。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。国語A・B, 算数A・Bの中で全国平均との差が最も少なかった(課題が最も大きい)。 ・「話す能力・聞く能力」と「書く能力」、「読む能力」など、複合する能力を求められる問題はよくできていた。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す(複合的な能力を求められる)問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえる問題(読む能力)の正答率が低かった。長文の物語文や説明文の内容を適切に読み取る力を育成していく必要がある。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。 ・領域別に見ると、「数量や図形についての知識・理解」の問題に課題が見られた。「数と計算」等、知識・理解を問う問題について、ドリル等を使った反復練習に力を入れる必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	正五角形についての理解、商を分数で表す問題の正答率が高かった。数量や図形についての技能を求められる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	資料から二次元数の合計欄に入る数を求める問題、図形の面積の関係の理解についての問題に課題が見られた。数量や図形についての知識・理解を求められる問題に課題が見られた。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。国語A・B, 算数A・Bの中で、全国との比較の差が最も大きかった。 ・どの領域もまんべんなく理解できており課題が少なかった。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	仮の平均を活用して測定値の平均を求める問題(量と測定)の正答率が特に高かった。全体的に、無回答率が全国と比較して低い傾向にあった。	
	努力が必要な問題	2けたのひき算の立式の問題に若干の課題が見られた。応用問題よりも基礎問題に近い問題に課題がある傾向が見られた。基礎を十分に定着させる必要がある。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書時間が長い。</li> <li>・自尊感情が高く、夢や目標をもっている。</li> <li>・規範意識や学校での学習、生活習慣については概ねよい傾向にある。</li> <li>・外国語のリーディングスクールということもあり、外国とのかかわりの数値が高く、関心が高い。</li> <li>・家庭での学習時間が短い。</li> <li>・新設校のため、地域とのかかわりが少ない。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○国語も算数も、応用よりも基礎に課題が見られる傾向がある。「ひびきのタイム(全校)」や朝自習等での反復学習等を通して、基礎的な学力を定着させていく。  
○5年生については、北九州市学力状況調査の結果を詳細に分析し、新年度の全国学テに備える。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習の時間が少ないので、各学級での宿題の在り方(量・質)を再検討するとともに、通常の「学校だより」や特集号の中で、保護者に家庭学習についての啓発を行う。よいところ(読書、外国語)は一層伸ばしていくよう依頼する。小中の連絡(小中連絡会等)を密にして、上記の課題を共有する。